北海道新聞　2011. 11. 13発行

ジャンル　新聞

内容　「パーティーを演出　キャンドルで華やかに」という記事で、キャンドルの種類や楽しみ方、コーディネートの仕方が紹介されました。

パーティーを演出
キャンドルで華やかに

震災による節電の影響などで、キャンドルの明かりが見直されている。年末年始を控え、どんなキャンドルを使い、どのように演出するとよいか、カメヤマキャンドルハウス（東京）に尋ねた。

パーティーの多い季節に重宝するのが、透明度の高いポリカーボネート製のカラフルなカップに入ったキャンドル。直径4㌢、高さ2㌢と大きくないが、燃焼時間は約5時間で赤、ピンク、青、緑、黄と明かりが色づく。

これを凹凸のある透明なガラス製ホルダーに入れると、光が反射、屈折し、テーブルに花火のような光の輪が広がり華やかになる。クリスマスなら赤と緑、カフェ風なら黄色と色の演出を。

年末年始　催しに重宝

カットの異なるホルダーに取り換えると、光の量や陰影が変化し、違った模様を楽しめる。

そのままでインテリアになるのが、ツリーや動物、マツボックリ、ゲーキなどモチーフをあしらったキャンドル。パウダー状のキャンドルや砂、ビーズを大皿に敷き、色違いのツリーを2、3個、ウサギやリンゴのキャンドルを並べると森のイメージになる。

炎の明かりで、おいしく見せるこつは、料理の少し上から照らすこと。例えば、20㌢くらいの高さの柄付きグラスにキャンドルをともし、テーブルに置く。あまり高すぎると、お互いの顔が見えにくくなるので注意する。また、炎はガラスによく映えるので、意識してガラスの食器を使うとよい。料理の味を損ねないよう、必ず無香料のキャンドルを使いたい。

上手に演出するには、全て同じ高さに並べずに、テーブル、キッチンカウンター、棚など3段階くらいに高低差をつけて置く。電気を全部消す必要はなく、間接照明と併用する。

カラフルでかわいいデザインが増えた最近のキャンドル

kameyama candle house.